

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅴ（入浴・清潔） 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	田村 美由紀	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。生活支援技術論での学習を踏まえて機能低下や障害がある人などの入浴・清潔場面において適切な介護が実施できることを目指す。ICFに基づくアセスメント、日常生活における清潔の意味や必要性、清潔援助の種類と清潔方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) その人らしく生きるための自立（自律）に向けた入浴・清潔保持の介護の意義・目的を理解する。
- 2) 対象者（利用者）の潜在能力を引き出し生活拡大が図れるように個別性や創意工夫の必要性を理解する。
- 3) 清潔介護における知識・技術・態度を身につける。

【授業計画・内容】

- 第1回 人間にとって清潔とは何か、清潔の意義・目的
- 第2回 入浴・清潔に関するアセスメント ①ICFの考え方
- 第3回 入浴・清潔に関するアセスメント ②自立している場合と障害がある場合の清潔
- 第4回 入浴と清潔ケアの基礎知識、種類と方法
- 第5回 安全・安楽な介助の技法 ①全身清拭、手浴・足浴
- 第6回 安全・安楽な介助の技法 ②洗髪
- 第7回 安全・安楽な介助の技法 ③入浴・シャワー浴・機械浴槽（1）
- 第8回 安全・安楽な介助の技法 ④入浴・シャワー浴・機械浴槽（2）
- 第9回 安全・安楽な介助の技法 ⑤洗面、爪切り、耳垢除去、整容など
- 第10回 実技チェック（1）
- 第11回 実技チェック（2）
- 第12回 障害・状態に応じた留意点 ①感覚機能が低下している場合
- 第13回 障害・状態に応じた留意点 ②運動機能が低下している場合
- 第14回 障害・状態に応じた留意点 ③認知・知覚機能が低下している場合
- 第15回 入浴・清潔介護における他職者との連携・福祉用具の活用と身近な物品の工夫

【授業実施方法】

グループワーク、演習形式とする。

【授業準備】

教科書を事前に確認し、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本、介護総合演習、生活支援技術論

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ（第3版）中央法規（株）

【参考文献】

適宜紹介します。

【成績評価方法】

筆記試験 70%、実技チェック 20%、演習への取り組み・授業態度 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

訪問介護事業所にて、サービス提供責任者の経験があり、現在は訪問介護員として在宅生活を送る高齢者、障害者の方の支援をしている。

利用者との支援を通じての信頼関係の構築、利用者の潜在能力を引き出す視点など実務経験からの実例を紹介。

自立に向けた安全、安楽な介助方法を根拠に基づき考えながら演習を行う。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し、対象者（利用者）に適切な清潔介護ができるように、積極的に基本技術を習得しましょう。